

用を及ぼすかと云ふに、却つて其の反對なる事を實驗したる學者がある。例へば、
畢丸の浸出液 即ち畢丸越幾斯を動物體內に注射し、其の吸収に因りて神経筋肉組
織の働作を増進し、疲勞を減却せしめたと云ふ成績があり、又或る學者はブオール
氏の「スベルミン」(畢丸の浸出液より得たる物質)に就て研究し、哺乳動物に之を
頻回持續して與ふれば、食思を増進し體重を加へ、傳染及び中毒に對する抵抗力を
昂進すると云うて居る。併し又他の學者にして、此の「スベルミン」の無効又無毒
なる事を主張して居るものもある。

但斯かる種類の實驗は唯之のみにて直ちに組織と作用の頗る複雑なる人體の性慾
生理の上に完結なる結論を與ふるものではないが、併し是等の實驗に依つて生殖腺
分泌液の蓄積が直りに有害なる作用をなすものであると云ひ得ない事を證明するも
のである。故に性慾の抑制は吾人の健康を害するとは云ふ事が出来ない。

三 性慾の抑制法

性慾は如何にしてそれを抑制すべきか、これに就て栗本氏が適當な事を云はれて
居るから、これを次に引用する。

即ち子供が十三、四、五になれば、なるべく薄着をさせて置くことが必要である。
殊に京服に於けるが如く、自分の子供を愛するが爲めに人形か或は着物だけが歩い
て居るかと思はれる程、厚着をさせるのは宜しくない。薄着も軽くしなければなら
ない。重いと其れ爲めに生殖器の部分を壓迫して春情を刺戟するから、薄着、薄
布圍は極めて必要である。

第二には食物を少くすること、と云うて滋養物を取るなど云ふのではない。間食
をさせるなど云ふことである。殊に注意すべきことは、寝る前に物を食はせるのは
大變悪い。それと同じく、永く起きて居れば物を食ひたくなるから、早く寝かすこ
とは必要である。第三には運動を奨励すること、併し春機發動期には過勞を禁ずる
ことも條件である。多く骨を折らせると神経衰弱を來すことになる。神経衰弱を來

たすと春情が盛になる。肺病患者が死期前に却つて房事過度になることがある。之は神経衰弱の結果である。

第四には勉強時間の制限をしなければならぬ。脳髓が痲痺すると夢を見る。一體人間が睡眠するのは脳が貧血するから眠れるのである。それをば勉強して疲らせすぎるのが悪いが爲めに夢を見る。其の夢も雑多であるが春機發動期には所謂忘想を起すものである。第五には之は教育の方であるが、つまらぬ小説は嚴禁しなければならぬ。殊に一時戀愛小説の流行した時分には春機發動期のものが戀愛小説を讀むと先づ野卑になる。又義太夫、清元などの文句を聞くのはいけない。一體に斯うしたものに依つて性慾を挑發される。第六には禁酒、禁煙である。喫煙は幼年者禁煙法で差止められてあるが、之れは一つの刺戟物である。酒も同じく刺戟する。故に春機發動期のものに酒や煙草は許すことは止めなければならぬ。

それから自瀆の注意である。自瀆は寄宿生に多い、春機發動期に於て自瀆の害は

恐るべきもので、此頃青年病者の中で學生を見るといふと自瀆病が少なくない。即ち神經衰弱症と云ふのが澤山ある。さういふ様に自瀆癖を有するものから屢々神經衰弱症を起す。故に若し自瀆をなすものがあつたならば腰部を冷拭させる事が必要である。全身の冷拭は冬は困難であるが、腰部だけならばさして困難ではない。殊に自瀆をする人間には冷布を絞つて腰部を毎日摩擦させることが必要である。朝は一番宜しいが寝る前でも宜しい。それから斯ういふものには薄い布團を着せて寝させなければならぬ。それから裸にして寝かすものがある。それは忘想を起す恐れがある。又禪をするものがてるなら禪を外づして寝させなければならぬ。

以上は重に男子に關したことであるが、女子はどうかといふとそれも大同小異であるといつてもよい。故に矢張りそれだけの注意をしなければならぬ。

此の頃或る學校の實驗者に聞いたのであるが、休憩時間に女學生が或る所に集つて密話をする。何をするかと云ふと喋々男子の批評で、若しもそれをやると其の團

體と親密になる。それ故に甲の團、乙の團といつて密談があるといふことです。だから金を掛けて遠方へ出してつまらぬ、女學校の寄宿舎、又は下宿などに可愛き子女を入れる人は、恰も自分の子供を要らないから溝の中に入れるのと同じであるといつても宜しい位の場合がある。

それから女子に取つては月經の注意が必要である。月經時は下腹部が充血して機關には血が澤山あるから、微菌の榮養にも良くなるし、凡ての病氣にかゝり易くなつて居るにも拘らず、教員の注意不足の爲めに、月經中に體操を行はせたり、或は又長く腰掛に座らせて腰部を大變に疲らせる。斯う云ふやうなことは大變に害がある。是れは本邦の習慣として月經をば障りといつて恥かしがらるが、それは甚だ悪い。婦人の生理的として無かつたらこそ赤面してもよいのであるが、月經があるからとて恥かしがらるには及ばぬ。月經の際には教員の不注意もあるが、家庭の注意が一番大切である。

十數年前斯ういふ話があつた。某女學校の生徒であつたものを妻に持つても子供が出来ないと云ふことがあつた。元は噂であるから實際は解らぬが、是れは月經の際に精神及び身體を疲らした結果、生殖器が凡て異徴に呈して、或ひは子宮が前屈するとか、或は後屈するとか、爲めに妊娠をすることが出来ないといふ點がありはしないかとも考へられる。今日では女子の學校などでも其の邊は注意して、月經といふのも恥ぢないやうになつた。之れを言ふと恥ぢるやうでは衛生が普及したのではない。故に月經時には最も注意しなければならぬ。

それから第六には、以上お話しした攝生を守ることが出来ないといふ男子に於ては神經衰弱になり、女子にありては貧血症、一種不明の貧血症になり、續いて例のヒステリーになる事がある。ヒステリーは總て物が過敏になつて、心配しなくともよいことを心配したり、或ひは外の生徒に對して嫉妬心を起したり、或ひは泣き、或ひはをかしくもないのに笑ふやうな過敏の症狀を表はすのは、春機發動期に於て

澤山認めらるるものである。是れは皆學校に家庭の衛生が不完全なるが爲めに起るの
である。

それ故に春機發動期に際しては、如何に其子女を衛生的に發達せしむべきかと云
ふ一大問題がある。之れは生理的に起る慾(性慾)であるが、此の慾は邪魔をしない
やうに、自然的に發達させなければならぬのである。それには必ず今迄述べた衛生
概則は守らなければならぬのである。これをば家庭に於て健全無難に發達せしめ、
學校でも健全無難に發育せしめなければならぬ。

四 童貞と避妊

以上に述べた様に、青年は結婚する迄性慾を抑制して其の童貞を保つべきもので
あるが、併し抑制し難き恐れある場合には職業の事情家庭の状態等にも顧みて、多
少は早婚をなすことも亦止むを得ぬのである。然る時に於て新マルサス主義者の云
ふ如く妊娠を避くる方法も亦、敢へて不合理であるとは云はれない。

質 問 券	
質 問 事 項	質 問 者 の 住 所 氏 名

本書に關して不明の點あらば其旨左の質問券へ記入の上直接著者(東京市本郷區眞砂町
三十七番地羽太説治)
へ申込まれたし。博士は信用を重んじ、秘密に回答すべし。但し拾錢郵券拾枚添付

發 行 所

東京市小石川區宮下町四十三番地

大正十四年十月二十日印刷
大正十四年十月二十五日發行

定價金壹圓七拾錢

不 許
複 製

著 者 羽 太 銳 治

東京市小石川區宮下町四十三番地

發 行 者 金 子 專 一 郎

東京市小石川區戶崎町九十四番地

印 刷 者 岸 直 治

東京市小石川區宮下町四十三番地

發 行 所 金 子 出 版 部

發售東京二八一七番

著 者 と 職 業

△性病診療▽

慢性淋疾及梅毒

生殖器機能障害

陰萎、遺精、早漏、神経衰弱

婦人生殖器病

淋毒、梅毒性疾患及性的不感症

▲診察時間● 初診の方は必ず午前十時まで御来院ありたし

東京市神田區今川小路二丁目十二番地

醫學博士 羽 太 銳 治

終

